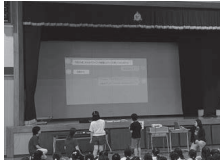


プログラム名	体験型安全教育プログラム（犯罪編・SNS 編・地震編）			
団体名	特定非営利活動法人 体験型安全教育支援機構		区分	講 師 教 他（講師養成）
対象者	未小中高 小中高 他	年齢だけでなく、子どもがその時持っている能力＝発達段階に応じてプログラム実施		本プログラムを用いて指導するための指導士及び指導士補資格取得講座の開催
対象分野	学校 学外 研修			

プログラムのねらい	
危機を疑似体験することで、自ら考え行動し命を守る力である「安全基礎体力」（①体力、②危機への知恵・知識力、③コミュニケーション力、④大人力）を身に着けます。 発達成長段階に沿ったプログラムとなっており、その時の最大限の定着を目指します。 危機を疑似体験することで記憶に残り、万一の時の自助能力、さらには共助の力を高め、また、成長発達段階で危機回避がまだむずかしい子供でも、練習を繰り返し体験することで、いのちの大切さやそのまもり方を身につけることができます。	
プログラムの内容	必要コマ数 各 45 – 60 分
<犯罪編> 学校から家までの疑似的な通学路を設置し、つきまといや待ち伏せ行為等の察知、声掛けからの回避、連れ去りなどからの脱出、危機遭遇後の克服方法を学びます。具体的にはあやしい人の誘いを「はっきり断る」、危険だと思ったらそこから「離れる、逃げる」、友達を「助ける」、大人に「知らせる」までを体験します。 また、「あやしい人の特徴」「あぶない場所」を合言葉を用いてわかりやすく説明します。 < SNS 編 > 投影資料および当団体が制作した動画を用いて、子供たちと対話しながら SNS に潜む危険を知り、安全な使い方を学びます。未就学児・小学低学年児童には、紙芝居を用いてすすめます。プライバシーや写真等を投稿する際の注意点だけでなく、実際にオンラインゲームで知り合った子供を連れ去った犯人から聞き取り調査した、子どもへの接触手口についても説明し、SNS で知り合った人とは「絶対に会わない」ことを伝えます。さらに、やり取りが危険なものであると気づいたり、実際に被害にあった時は、すぐに頼りになる大人へ相談することが大切であることも学びます。 また、グループチャットなど言葉だけのコミュニケーションにより、友人との関係が悪くなったり、自分が「加害者」になる得ることも合わせて学びます。 <地震編> 疑似的な「まち」の中で、ブロック塀の崩壊、瓦礫の散乱等を安全な素材を用いて再現し、実際の大地震時の映像、被害に遭った子どもたちの「大地震その時」の言葉や行動を共有することで大地震をイメージさせます。具体的には室内外の危険な場所を知り、揺れから 8 秒の間に倒れる・動くものから離れる、安全確保の姿勢を取り 1 分間は揺れを我慢する、その後けがをせずに逃げられるように体を動かす方法を体験します。また避難所での安全対策についても学びます。 	
令和 5・6 年度実績	☒小学校 ☒中学校 ☒高校 ☒特別支援学校 ☒その他（ ） 令和 5 年度実績（都内） 43 校（回） 令和 6 年度実績（都内） 44 校（回） ☐教科（ ） ☐道徳 ☒総合的な学習の時間 ☒特別活動（クラブ活動、生徒会活動等） ☒教育課程外（放課後子供教室、夏休み等の長期休業期間等） ☐教員対象研修 ☒PTA 等保護者対象研修 ☒学童クラブ・児童館等のイベント ☒その他（ ）

支援活動の概要紹介	
子供が自分自身を守るだけでなく「危機に対し共に向かい合い、克服するために深い知恵と生き方を体得し、最後は 21 世紀を作る人間＝大人＝地球市民を育てる」ための、教育プログラムの開発を目指しています。科学的な根拠に基づき、発達段階に沿って自分を守る力＝「安全基礎体力」をつける教育、自助だけでなく共助、公助の心を培う教育、危機を通して子供を大人にする教育、を実施しています。	
対応可能な時期	日程が合えば随時可能
必要経費	有料 交通費及び運営費のご負担をお願いいたします
その他 会場・定員・必要備品 などについて	プロジェクト及びスクリーン。 体験施設は参加人数、会場の広さ等にあわせて調整して配置します。
連絡先	部署名・担当者
	清永、林
	プログラム紹介 WEB
	https://www.safety-education.org/%e9%98%b2%e7%8a%af%e5%ad%90%e4%be%9b%e5%90%91%e3%81%91/
	電話
	03-3946-5203
	e-mail
	info@ri-step.co.jp